

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年6月23日～2014年6月29日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成26年7月1日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼ビビロフ「議会議長」の発言(23日)

・23日、ビビロフ統一オセチア党党首が「議会議長」に選出された。「ビ」党首は露メディアに対し、ロシアへの編入の是非を問う住民投票の実施を目指す旨を発言。

・23日、南オセチアを訪れたスルコフ露大統領補佐官がビビロフ「議会議長」と会談。報道によれば、会談では住民投票の問題は取り上げられなかった。

・24日、グルジア外務省は、南オセチアでの住民投票や先日の「選挙」は「民族浄化を隠蔽するための不法な措置」であり、無効であるとの報道情報局のコメントを発表。コメントはアブハジアでのグルジア系住民に対する差別にも言及し、被占領地域で進行中の事態を国際社会が適切に評価するよう呼びかけている。

2. 外 政

▼アバシゼ対露関係首相特別代表とカラーシン露外務次官の電話会談(23日)

・電話会談では、グルジア・EUの連合協定への署名後のグルジア・ロシアの貿易・経済関係に関する両国の専門家会合の開催について話し合われた。両者の次のプラハでの会合は7月前半に行なわれる予定。

▼米・グルジア海事協力センターがオープン(24日)

・グルジア沿岸警備隊の能力の向上を目的として、米国の資金で黒海沿岸のスプサにつくられた「海事協力センター」の開所式が行なわれた。

▼OSCE安全保障会議(24日～26日)

・ウィーンで行なわれた OSCE 安全保障会議にザルカリアニ第一外務次官が出席。演説で、ポロシェンコ・ウクライナ大統領が提案したウクライナの和平案への支持を表明するとともに、国際社会がアブハジア・南オセチアの状況により大きな関心を向けるよう呼びかけた。

▼ヴェヨニス・ラトヴィア国防相がグルジアを訪問(25日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領、アラサニア国防相と会談。「ア」国防相との会談では、両国の国防協力およびグルジアの NATO 加盟の展望などについて話し合われた。「ヴェ」ラトヴィア国防相はグルジアの EU・NATO 加盟に対するラトヴィアの支持を強調。

▼パンジキゼ外相がNATO外相会合に出席(25日)

・24日、「パ」外相はラスムセン NATO 事務局長と会談し、グルジアの NATO 加盟に係る諸問題を検討した。「ラ」

事務局長は、グルジアでの地方選挙の成功と EU との連合協定への署名について祝意を述べた。

・25日に行なわれた NATO 外相会合後、「ラ」事務局長は、9月のウェールズでの NATO 首脳会議でグルジアに対して MAP が付与されることはないが、その代わりに、NATO は、グルジアを更に NATO に近づける「実質的なパッケージ」を策定すると発言。パッケージの具体的な内容は、今後、首脳会議までにグルジアと密接に協力しながら決定すると述べた。

・ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合問題担当国務大臣は、グルジアには NATO 加盟についての交渉を始める準備があるが、NATO の一部の加盟国にはその用意がなく、拡大に対して「より穏健なアプローチ」をとっているとコメント。

▼新しい駐グルジアEU大使の任命(26日)

・2010年から現職のディミトロフ EU 大使に代わり、ハンガリー出身のヘルマン EU 中央アジア特使が新しい EU 大使に任命された。

▼ナヌアシヴィリ人権保護官が欧州評議会を訪問(26日)

・「ナ」人権保護官はグルジア国会代表団とともに欧州評議会を訪問し、ヤーグラン欧州評議会事務局長と会談。

「ナ」人権保護官はグルジア国内の人権状況を説明し、グルジアに対する積極的な支援に対して「ヤ」事務局長に感謝を述べた。「ヤ」事務局長はグルジアに対する更なる支援を約束。

・「ナ」人権保護官は、欧州評議会および議会会議の代表者に対し、反差別法の制定、矯正制度、紛争の被害を受けた人々の状況に焦点を当てつつ、2013年中のグルジアの人権状況について報告を行なった。

▼グルジア・EUの連合協定への署名(27日)

・ブリュッセルにて、ガリバシヴィリ首相はファン・ロンパイ欧州理事会議長、バローゾ欧州委員会委員長、EU 各国の首脳とともに、DCFTA を含むグルジアと EU の連合協定に署名した。署名式での演説で「ガ」首相は、「今日グルジアは自由な欧州に向かって大きな一歩を踏み出した。6月27日は歴史的な特別な日として記憶されるだろう」と話した。

・グルジアとともにモルドバも連合協定に署名。既に連合協定の政治部分について署名していたウクライナも、残りの経済部分の署名を完了させた。

・連合協定は、インフラ、エネルギー、環境、農業、観光、社会政策、保健、教育などあらゆる分野に欧州のスタンダードを導入することを定めている。また、DCFTA

により、EU 圏との間の関税が廃止され、通商に係る制度・規制が共通化される。

・グルジア国会は7月後半に協定の批准を予定している。
・27日夕、トビリシ中心部では連合協定への署名を祝う野外コンサートが開かれ、マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長、イリア2世グルジア正教会総主教が挨拶した。

・27日、ケリー米国務長官は、グルジア、モルドバ、ウクライナの3カ国がEUとの連合協定に署名したことを歓迎する声明を発表。ラスムセンNATO事務局長も、連合協定は「欧州の自由、安定、繁栄を強化する」との声明を発表。

・前日の26日には、グルジアとEUの間で、連合協定の効率的な実施に向けた2016年までの行動計画「連合アジェンダ」が採択された。

・25日、ラヴロフ露外相は、EUとモルドバ、グルジア、ウクライナとのDCFTAが、CIS諸国の自由貿易に否定的な影響を及ぼすならば対抗策を講じなければならないと発言。

▼米議会代表団のグルジア訪問(29日)

・カーディン議員(民主党)を代表とする米議会の代表団がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、野党「統一国民運動」代表者らと会談した。

3. 内政

▼憲法裁判所が外国人への農地の売却の停止を違憲と判断(24日)

・2013年6月に国会が採択した、外国人への農地の売却を2014年末まで停止する法改正について、24日、憲法裁判所は違憲と判断し、同条項の撤回を決定した。Transparency International Georgiaに所属するオーストリア人男性が提訴していた。

▼第9回国防・安全保障会議(27日—28日)

・国防省の主催でバトゥミで開催された国防・安全保障会議には、マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、アラサニア国防相、ヴェヨニス・ラトビア国防相、ミクセル・エストニア国防相、マリソン英国国際安全保障相らが出席。欧州・大西

洋地域の安全保障、NATOの拡大、ウェールズでの次回のNATO首脳会議、グルジアの国防分野の改革、ISAFミッション、黒海沿岸地域の戦略的重要性などについて議論された。

・「ア」国防相はミクセル・エストニア国防相と両国の軍事分野での協力について会談。

▼地方選挙の再投票(29日)

・6月15日の統一地方選挙の際に、投票が妨害されたり、その後不正が発覚したりした14の投票所で再投票が行なわれた。有権者数13,956人に対し5,112人(36.63%)が投票。「公正な選挙と民主主義のための国際社会」は「些細な技術的不備」を除き投票は問題なく実施されたとのコメントを発表。

4. 経済

▼イスラエルの農業・地方開発相がグルジアを訪問(23日—24日)

・グルジア農業省の招きでシャミル・イスラエル農業・地方開発相がグルジアを訪問。ピピア農業相と会談し、農業分野での両国の協力に係る合意に署名。ガリバシヴィリ首相、ホクリシヴィリ地方開発インフラ大臣とも会談。グルジア・イスラエル・ビジネスフォーラムに出席。

▼2014年1月—5月の貿易収支(24日)

・国家統計局が発表。貿易額4,498百万ドル(前年同期比16%増)、輸出額1,175百万ドル(同17%増)、輸入額3,322百万ドル(同15%増)。貿易収支は2,147百万ドルの入超。
・貿易相手国の内訳はCIS諸国32%、EU諸国26%、その他42%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、アルメニア、ドイツ、米国、ブルガリア、ルーマニア。日本は第8位の輸入相手国(輸入額125百万ドル)。

▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣がスウェーデンを訪問(25日)

・ビョールリン・スウェーデン通商大臣、ゴルニツカ・スウェーデン国際開発協力局(Sida)理事長らと会談。Geocellの親会社であるTeliaSoneraの本社を訪問。また、スウェーデン外務省およびSida主催の会合で、ABB、Volvoなどの企業代表者と懇談。同行したペルタイア国家投資局局長がグルジアの投資環境を紹介した。